

株式会社 百五銀行  
2026年3月期決算発表における質疑応答

【質問①】

- Q. 国債等債券損益の低利回債券の入替について長期的な戦略を教えてください。
- A. 債券の含み損は減らしているものの、まだまだ含み損が増加傾向にある。状況をみて低利回り債を売却して入れ替える対応を行っていきたいと考えている。そういう意味合いでは、今後、売却損が出る可能性はある。

【質問②】

- Q. 中東情勢について、足元で顧客にどのような影響が出ているか。また今後の対応について教えてください。
- A. お客さまには営業店からもヒアリングを行っている。お客さまもどのような影響が出るか明確に掴んでいるところは少ない。相談窓口にも相談はない状況。ただし、特に原材料を調達できないといった不安はお持ちの様子である。流通の滞りの可能性もあるので、注視していく必要があると考えている。

【質問③】

- Q. 法人預金の増加要因と今後の対応について教えてください。
- A. これまで預金増強に対しては前向きに認識していなかった点もかつてはあった。そこから見直しを行い、法人預金については、貸出シェアに応じた預金の営業を強化した。適正な金利で交渉を行っている。個人預金については多少のコストはかかるが、キャンペーン等により伸ばしていきたい。

【質問④】

- Q. 店舗を愛知県で増やしていく考えはあるか。
- A. 現状、愛知県では緻密な店舗体制にはなっていないので、見直しの必要性もあるが、現在のところ新店舗は考えていない。既存店舗では老朽化が進み、法人担当者が少ない店舗もある。そういった場合は統合するなど、内容を強固にする戦略をとっていきたい。

【質問⑤】

Q. 株式等関係損益の増加もあり 2026 年 3 月期の業績が上方修正されているが、2027 年 3 月期の業績予想が保守的なものになっていないか。

A. 2027 年 3 月期に関しては、2026 年 3 月期のファンド売却益や投信解約益などの特殊要因を見込んでいない。結果的には若干少なくなっているが、今後、増益は継続していく方針である。

【質問⑥】

Q. 債券のデュレーションを短くして、足元の金利上昇の影響を抑える考えはあるか。

A. 当行のデュレーションはそれほど長いものではない。2026 年 3 月期は債券入替や政策投資株の売却はそれほど見込んでいなかったが、国債利回りが上がってきたため、債券にシフトしてもマイナスの影響はないと予測して対応した経緯がある。

【質問⑦】

Q. ありあけキャピタルが株式を買い増しているが、この動きについてどう考えているか。また、今後の対応について教えてほしい。

A. ありあけキャピタルはあくまで機関投資家のひとつとして考えている。従前より企業価値向上について意見交換もしている。

企業価値向上については、ROE と PER の向上をめざすなか、IR や SR により投資家とのリレーションを深めることが必要と考えており、2025 年度はラージミーティングを含めて全体で 38 回の対話を行っている。

【質問⑧】

Q. ありあけキャピタルとどのような対話をしているのか。

A. 企業価値向上について当行の目標などを主題に対話を行っている。

以 上